

令和5年度
学校関係者評価結果報告書

令和5年6月10日
学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校

学校関係者評価委員会報告書

学校法人西田学園 アルファ医療福祉専門学校は、令和6年6月7日に「令和5年度学校自己評価表」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

令和6年6月10日作成

学校法人西田学園
アルファ医療福祉専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員出席者 定員6名

- (1)榎本 耕（社会福祉法人桐仁会 かえで園施設長）
- (2)小磯 英次（社会福祉法人たけのうち福祉会理事長）
- (3)榊原 直哉（社会福祉法人福愛会 藤井保育園園長）
- (4)柁屋 富治郎（町田市接骨師会会長）
- (5)松坂 健志（社会福祉法人東の会みたけ施設長）

学内出席者3名

- (1)瀧 将仁（校長）
- (2)平田 篤史（教務課課長）
- (3)影山 拓海（教務課）

2. 会議の概要

(1)校長挨拶

開会挨拶の後、職業実践専門課程及び学校関係者評価委員会についての概要、趣旨説明。

(2)出席委員紹介

(3)学内出席者紹介

(4)本校概要説明 本校の沿革、学科、生徒数、就職状況等について説明。

(5)令和5年度自己評価結果について

自己点検・自己評価報告書をもとに、項目ごとの自己評価、課題、改善策について説明をした後、出席委員との意見交換、質疑応答が行われた。

3. 学校関係者評価結果

大項目	学校関係者評価
基準1 教育理念	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：教育理念・3つのポリシーをもとに、将来構想は定められているが、人材育成像・特色・将来構想等の周知は十分ではない。</p> <p>改善策：今後の将来構想については年々変化する社会ニーズに即しているか外部委員の意見を取り入れて引き続き改善を図っていく。人材育成像等の周知については、学内含め現在の多様なソーシャルメディアを活用し周知の機会を増やしていく。</p>
基準2 学校運営	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：各情報をシステムに集約しつつあるが、複数情報が一元化されていない。</p> <p>改善策：専門学校の中での情報一元化に対して、最適な状態を検討し、機能を活用できる人材育成および業務の効率化を図っていく。</p>
基準3 教育活動	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：教職員の能力開発、資質向上のため外部機関からの研修を実施しているが、年々変化する社会情勢を鑑みると強化するポイントを絞り、さらなる質の向上を図る必要がある。</p> <p>改善策：従来の専門領域の知識・技術の習得や指導方法に加え、ICT活用に対しての研修の実施体制の整備も必要と考える。</p>
基準4 学修成果	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：卒業生の社会的な活躍および学校の教育活動への反映に課題を感じる。卒業後も繋がりを継続できる仕組みづくりについて新たな施策を行っていく。</p> <p>改善策：卒業生へのリレーション強化の仕組みづくりの一環として、ホームカミングデー（つながりの日）を全学科で実施していく。</p>
基準5 学生支援	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：卒業生への支援について、研修の実施、有資格者への技術向上を支援しているが、各領域のキャリアラダーを示せているとは言いがたく課題がある。</p>

	<p>改善策：学内資源の整理および活用を明確化する。今後新たな外部との教育交流の施策を実施し、卒業生および在校生にも周知していく。</p>
基準6 教育環境	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：実習施設の拡充には一定の効果がある。新たな教育環境の整備・連携が出来るように施策を検討したい。</p> <p>改善策：学内資源を整理し、学外への教育環境の交流や意見交換から今後の施策を模索していく。</p>
基準7 学生募集と受け入れ	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：学生募集については、社会的ニーズに即して引き続き「今」の状況を適切に分析し、募集方法およびカリキュラム・特徴を適切に周知していく。</p> <p>改善策：他校でも独自の取り組みを行っているため、学生目線に立ち「選ばれる学校」として当校のカリキュラムや特徴を適切に伝えていく。</p>
基準8 財務	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：安定した入学者の確保と退学者の抑止を図る。経費全般について、適切な支出なのか見直しを図る。</p> <p>改善策：引き続き入学者の安定的な確保、各部門ごとの予算・経費の見直しを図り財政基盤の安定を目指していく。</p>
基準9 法令等の遵守	<p>評価：適切である。</p> <p>課題：適切に公式 HP に教育活動及び情報公開を掲載していく。</p> <p>改善策：学生・保護者・外部機関からの視点に立ち、今後も再検討を図る。</p>
基準10 社会貢献	<p>評価：やや不適切である。</p> <p>課題：学校としてボランティア参加に対する評価と支援する仕組みづくりには課題がある。</p> <p>改善策：学校としてボランティア参加に対する評価と支援する仕組みづくりについて、関係機関や対象施設と協議を図り、具体的な施策に落とし込む。</p>

4. 学校関係者評価 総括と課題について

項目	評価・意見
自己評価結果についての 全体的な評価・意見等	<p>新設した学習支援課と学科や各課との連携もあり、退学者数は大きく減退している。昨年度の要因分析をすると多様な学生の背景に対して、まだまだ改善できる要素はある。また一定以上の国家資格取得の合格率の維持と就職支援は実績が出ている。教育活動および学修成果は、社会ニーズに沿った対応がとれている。学校運営、財務ともに ICT の活用による運営の効率化や学生募集や経費の見直しにより財務の安定化は図れている。</p> <p>一方でやや不適切であった社会貢献の項目は、ボランティアを始め評価制度や仕組みの見直しが必要である。</p> <p>令和5年度の全体評価としては、一定の評価を維持できているが、今後も変化の激しい社会に対応できる専門職人材を養成する環境を整備してほしい。</p>